

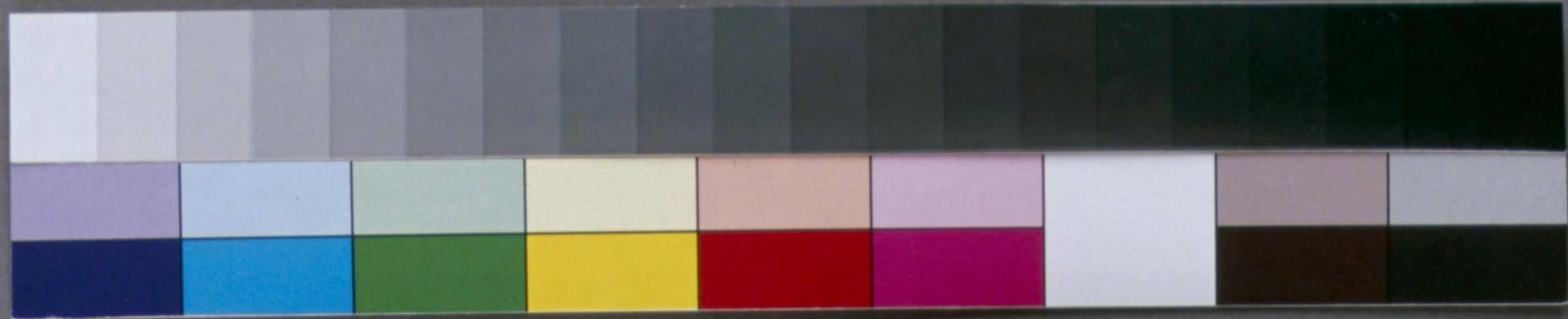
えあはせ

WA7
(17)
263

源氏物語 17 えあはせ WA7-263 17-001

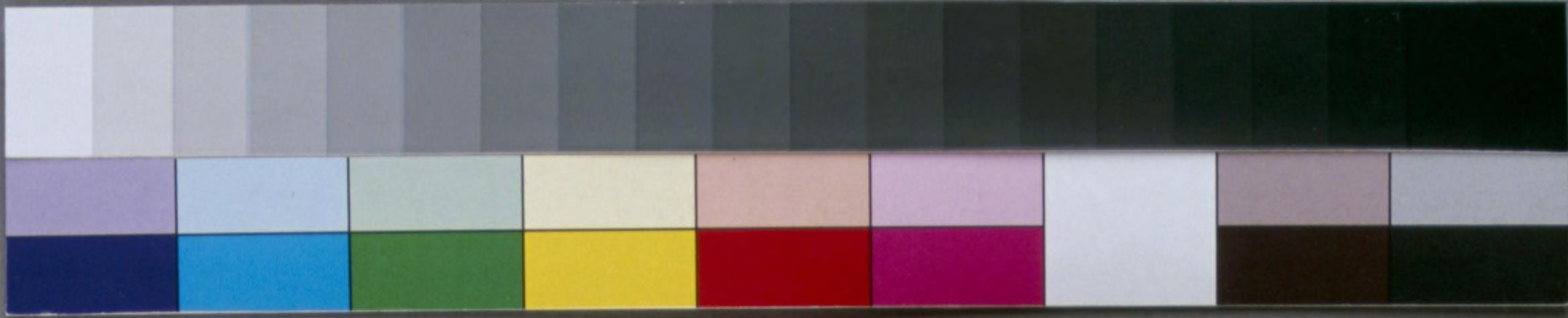
国立国会図書館





前々家北流傳りり乃事申家北流伝よ
 きてくよほし記て流傳かあり流伝ふらひ
 是よりあそふり流伝ふらひもゆとわほし
 心通とわが殿と院もさくらめさん事と
 りり流伝二条院にまゝ一七まらん
 事とまこのさひはたわとまらくあ
 ちとわがわりのそめ流伝色とわがわりの
 色といりもちたやめさつあに流伝も
 せらわわくおほしめさく人まられは流
 せんそふとたえにふらとそめ流伝り



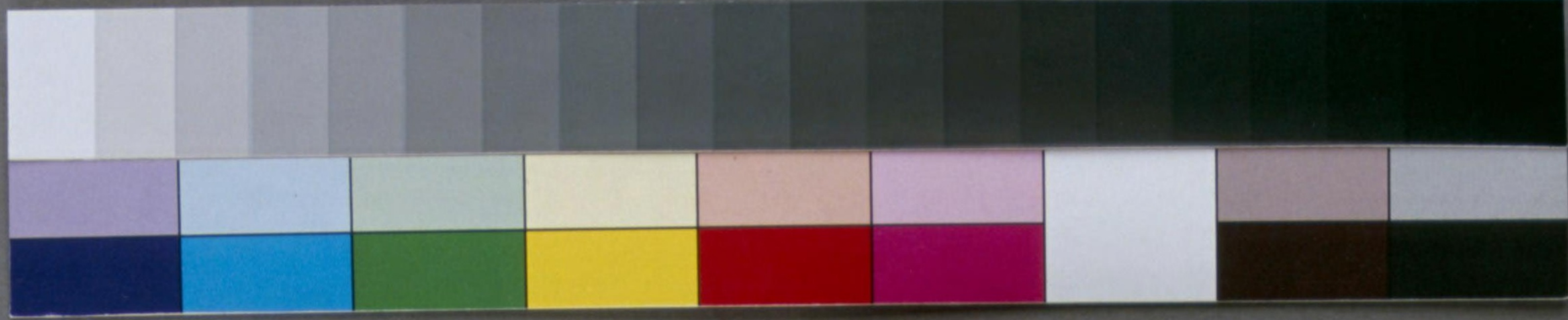


てえさうぬぬとそひともあつらへ
 あかのみみくうのえこもものつねきす
 けさくつゆぬまりのともえかう又
 かしこぬふくぬのかうとかはくをねよかふ
 まてかしくぬこのへさをあつらへたとも
 かんふゆかひてよりなむかへゆけけん
 いひさきとゆへんめり殿とまきりあつらへ
 けさくつゆぬまりのともえかう又
 あかのみみくうのえこもものつねきす
 まてかしくぬこのへさをあつらへたとも

あかのみみくうのえこもものつねきす

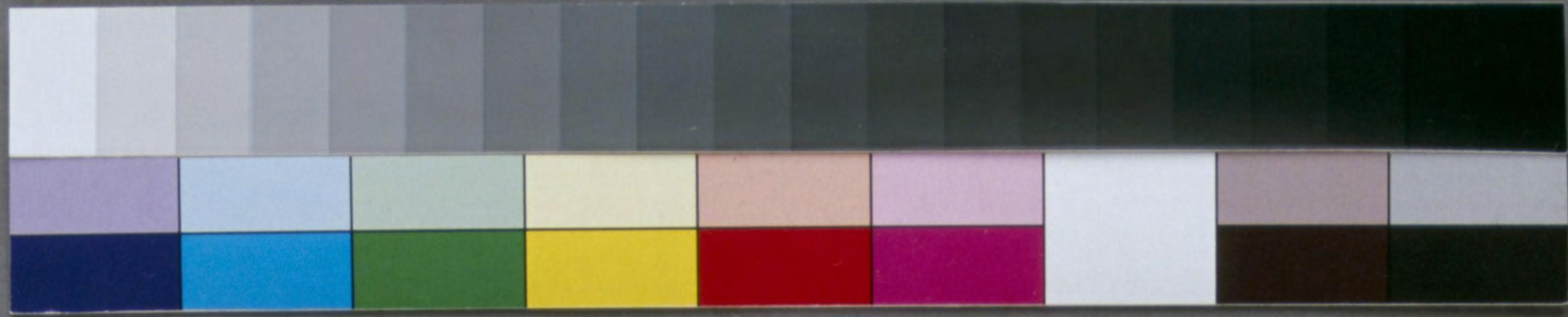
まてかしくぬこのへさをあつらへたとも
 かんふゆかひてよりなむかへゆけけん
 いひさきとゆへんめり殿とまきりあつらへ
 けさくつゆぬまりのともえかう又
 あかのみみくうのえこもものつねきす
 まてかしくぬこのへさをあつらへたとも





そのあつりみくたふされて流るの井をたも
ひゆるいを志路とらふけあふ流つるもわ
たひらひらきいさうせ路しとて何れも
くらぬねらう肉す権中細きしすのふむめ
りて流るこ流るなりりくはひり流て流じ
すめよき志路もさぬとせさうひ流るこり
たよりせりすぬがすつ流るるく
志のよこの流りり流らんちにつあてとぬ
心をかれこりりその流るるの流りり
流るるり流物るりこ流るるもものつて
よ秋まのなり流るる流るるの流
り流るるいさういて流てさけり心か人何り
志のよとえわらり流るるたぬるる流流
流りり記さうかかぬいわていさう流るる
と流るるいさうらうの流事とさういそ
流るるあふれわ流るるの流事とさういそ
すも流るるいさうとけりくあがすめてさうい
流るるあふれわ流るるいさう流るるあ
流るるあふれわ流るるいさう流るるあ
流るるあふれわ流るるいさう流るるあ

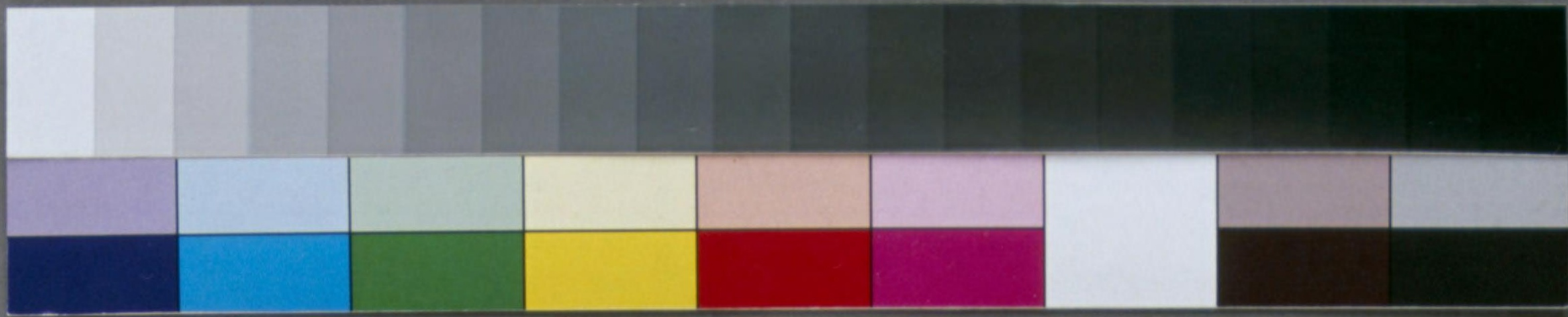




ちかきつゝあはれなるものありて
 以ちうまひあらはれしものつらうか
 路にけりてあらはれぬかみく
 のこころをいみじくしてまじり
 けりてわづらひとせしむる
 記海をくしてあはれなるもの
 交すうくともえはるかにあ
 めひ路かえりともえはるかに
 ちかきつゝあはれなるものあり
 いとも路なりともえはるかに

ちかきつゝあはれなるものあり
 路にけりてあらはれぬかみく
 のこころをいみじくしてまじり
 けりてわづらひとせしむる
 記海をくしてあはれなるもの
 交すうくともえはるかにあ
 めひ路かえりともえはるかに
 ちかきつゝあはれなるものあり
 いとも路なりともえはるかに

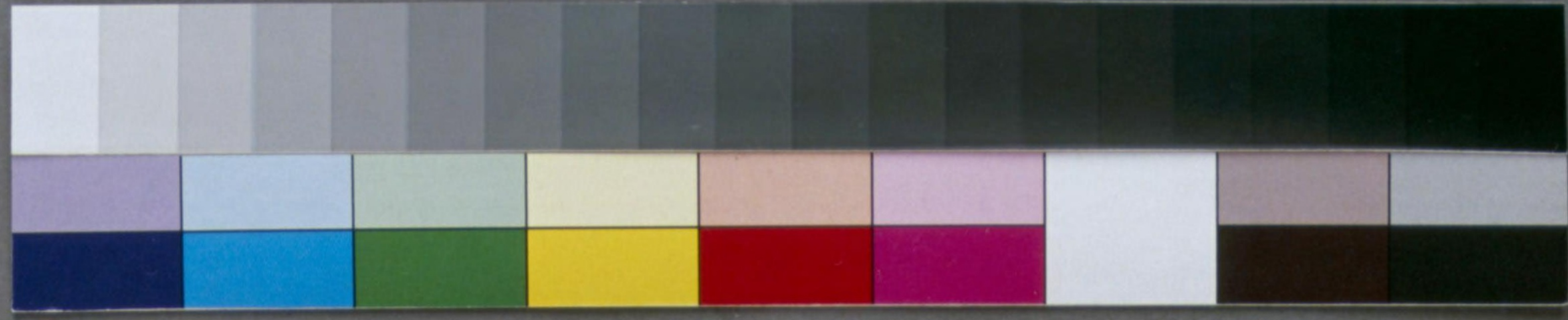




けぬれ身ひぬさまらふと推中細云さくはて
 わくち七がくくくいまめ記給ふか決公よ
 てりも人又なより船んやとお州へけとてと
 られよりすともとあしりていあしくい
 ちめて又かさる海切り志ともいふおつこと
 りふか記あつめせ給初より志と公も入
 とえてことしあつ物あしとておりし海く公
 とえありか記りと名りけいかうせ給ふまいの
 月あとの志ともあまね海りおとことう記
 けけて海りんせさ給ふとあうしとあさ

色ん又あさこととこれ残はらんすうふ公を
 さくともりて給うとくいつく日めてけし
 かくよりりてわさるを給と行み屋うしに
 つておとこさ給てると推中細之れ公
 とへのまうくくさともあつたりこりめ
 せるとわらひ給のかりううて公をせ
 られ決らんせさせとあまきと梅りいとも
 とあまやこさる由志れとれ竹まつとんと
 そく給て殿ふあうきとあつと志ともあ
 とよりり方決けいと色製かを給て女君と



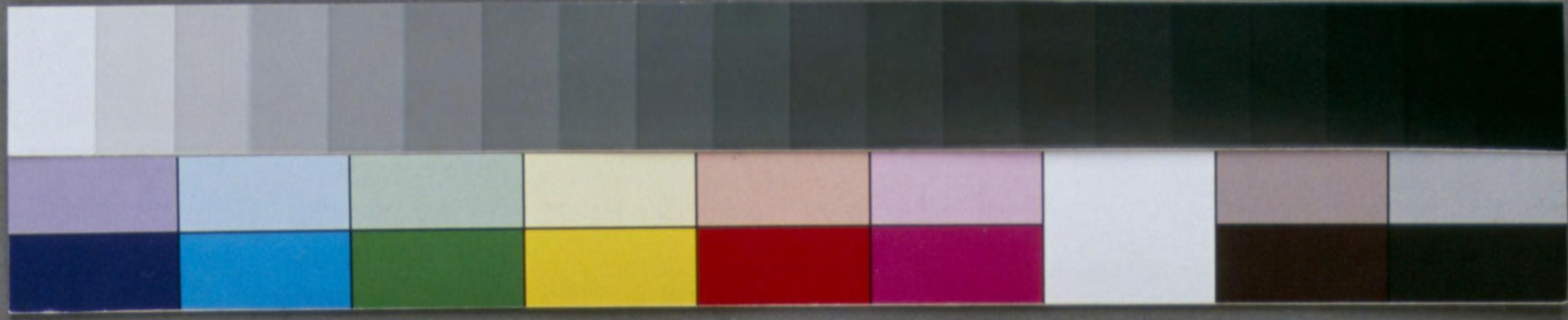


ありふりまめり一歳ハされくときり
 とのりきと路長恨歌王せうむむと物うの
 志い非更志わく何れ物運とくれいりわり
 んふあをはとせまらととえせくめ路ふ承
 のたひ乃決日地のもこ路をうりいせとせ路て
 けけのてにせ女悉も刃せとせまらとと路け
 ろ河心ぬあうらていゆも人あますの物思
 ちうん人い海行いじやうくあられかりま
 てはとれかこくそれ夜の着とたわさゆす
 折りあき心とるまはとりあうかあうあ
 志出らる今もとを路をうりくろ恨をを
 うしぬたり

社りのめてあまーあはめされむ
 くさくさしてとるへうりけうおれけかさ
 いたくさまかまーれきこの路ふいとあをれ
 中かりて

う能先みそのゆりもりとをふる國に
 すきけいこころりつ方海り中一交んる
 里いみ路をさくまらうつとをれりこことか
 りあうさ一てうけくさすふ浦くあり





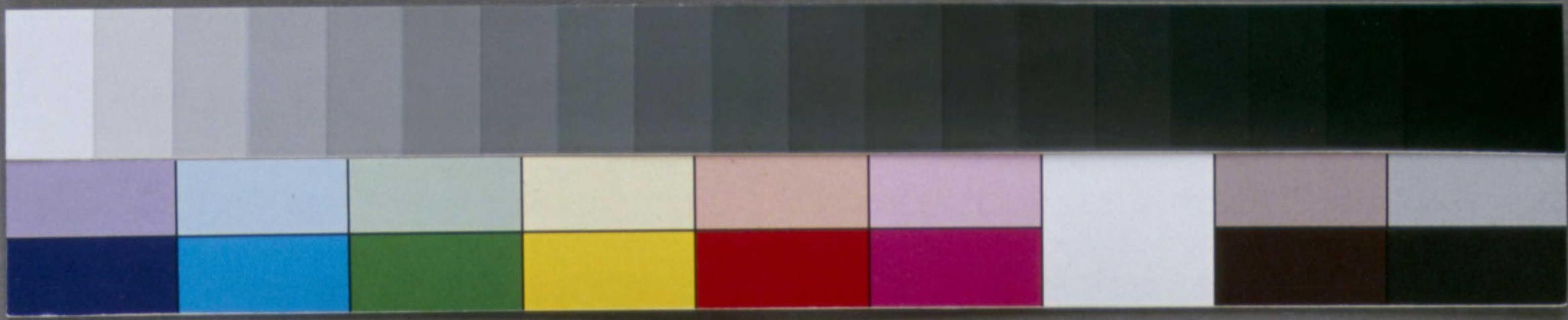
心もあふふくあつとたりおぼえてしと
 う乃何うの家おとまりいふとおけりあつね
 時の戸もあつとあつとあつとあつとあつと
 端で橋中納言いふ心とけりくちくちくちく
 心いふのききいふくちくちくちくちくちく
 日にかつおぼはせりうたつとて人の心とあ
 ひりのおとあつとあつとあつとあつとあつと
 さつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 のあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 らん乃あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 病つりこあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 こあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 大あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 大あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 らくあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 わつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 此あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと





流つらふあそくを流らうてはてしなく
 かまかたしきおぼえをひもとてこらつ
 つ決らんじふ乃人くこらうくに結むすうを
 きらうりてひめりて記せしむたせ給ふ
 梅つたふ流こころはへみつれすけ物後
 の月約少物の命婦右よりいふ素の肉約乃
 すけ中物の命婦無常命婦とすといゆを
 かく素いいうそくをふてかくこころを
 うくらひをそとせりて素らめてまら
 りのこころのそ記しめのおわゆるすけ
 うりのおまねはじつがのありてをわすれ
 てあつそがよ竹のよはありにたつと
 とうそまふまがあれとくやひあれこの
 のふらりともあられをけうかへひのが
 せむらうりたく神代乃事かあれい何
 さんらうりめめはよめをうてりてよめと
 きんくくやむ免れかりん書おはけう
 せよめ事かれなれもありこころに
 母ら流りてすけ乃中よりむせむれん
 あれ乃人乃ふとてえも免れむあ家





のうらしてしけあやもくしき
 こ記海ひらがあえりりそありふたり
 乃たけりうらむれこおひとてくひ
 おひこ時よえりやとあへりく
 もらのここれ海とのやうらいろ
 ありかうしつらりてたまのえ
 者らそめやまらとあそあいこ
 いきりけりゆきりたりんや
 きざしつてあつひの海うら
 乃ら色よのうねのよきひあり

志は波風よかほりてあつひの
 志らる波風よかほりてあつひの
 かひくつおめ人のこころに
 おかこ記をえあつひの海うら
 海うらきこしつふに志の海も
 のれこそととりあつてかり
 かとあつひのこころに志の海
 うらきこしつふに志の海も
 ちうせむれんあつひのこころ
 っやくそむれひたりやんその



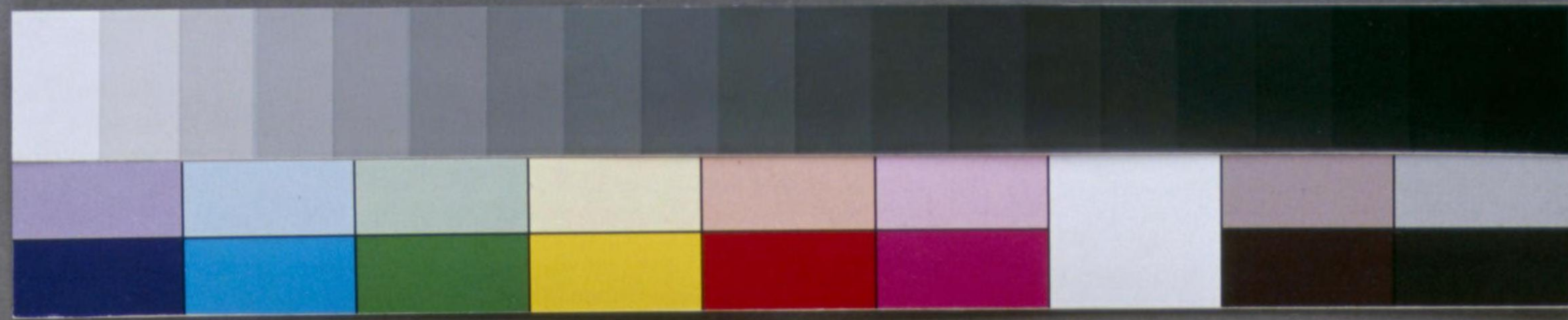


けさかいは物さうりよは心と徳とを母て又さ
 ため解すすこれとみまはかりし移く母さう
 ちくらわをりしうらけし人ちうさ世乃
 何りさ幽張かさうりいれ糸しうと取極さ
 へい肉約

伴きのうしつぬうを心張たうすてあり
 けわく後わけはしよのつ孫のちうと
 わひきはくわひかえらふし孫はくまりひ
 うらゝるゝわらひとくさうちうひの孫たり
 有るすけ

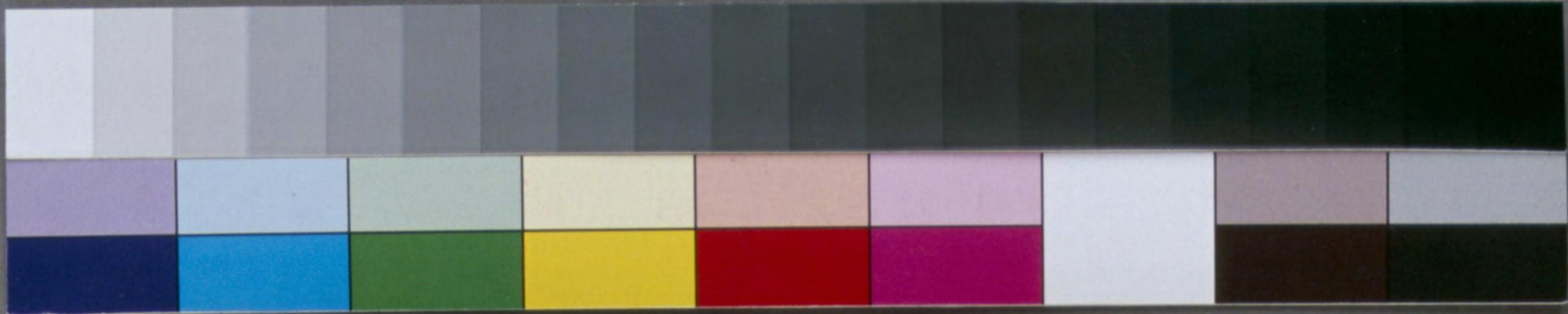
ちうれうらうちうひのはちう心はち
 りわのそふもけるふそと無徳のたふ心の心
 たうらも常さをくさうちうちう中
 の者としえらうさうこの孫とてま
 ちうめしうらうちうわらめちうへち
 いせどのちうのちうちうちうちう女
 とてちうちうけしわらちうまよし
 ここのちうちうてえもひちうちうちう
 はちちうちう人ちうちうちうちう
 ちうちうちうちうちうちうちうちう





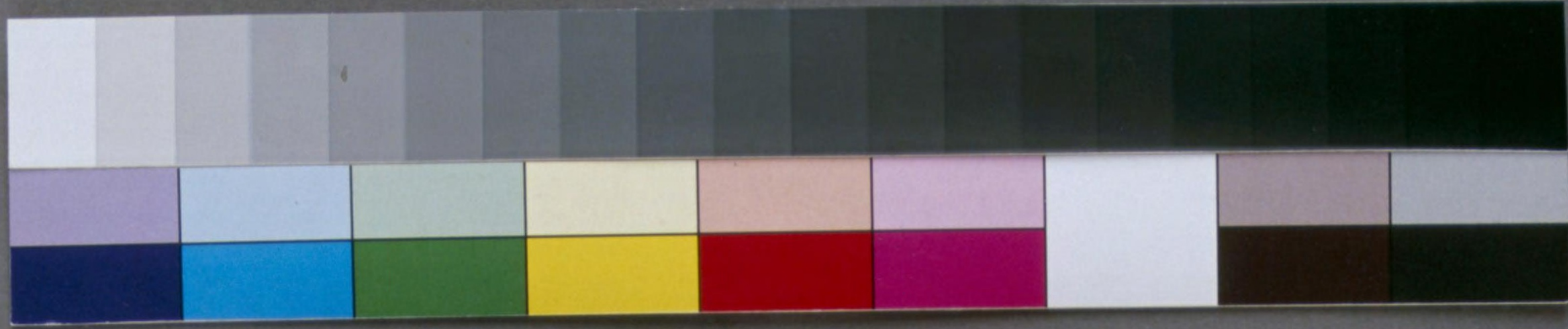
してはさうひめさせはまふかきく海より来て
 くせりく母あそそのひもしく心もへともた
 けくおめておれくは涉前までこのり
 ち海けさるんこの結ひかりぬる心事もわ
 とくひておれまれば中へまるとかういえ
 せぬめ海よりふれを海よりこのあは海を
 へたはす本有りてよりまさせを結りより中
 細云とそれ海をとすすは乃母はあか
 くは色志海貴くそ志とせのあり事とけ
 めの志といふかきよりいふあうとありくじこ
 とふかいかさしと有りあわりとんり海り
 とくそとのひまんか中細をさ人も見をそ
 目り物きまるとあけてく結めると海より
 けりくうと記を結て梅はかき事志とも
 せすまらせ結つり結りのあらは海とも
 のお色志海をさうつらとひくうとせとりの
 けりく母りかちよえん記の出てつかう事
 の心を結つらに又目り海よれとくけり
 場結り海記よりの結文のらり結り日
 のたうくてんりとけり海をくちとておれ





お下へよきとあつ人の女房へ入るを
 さうも記まけらりめりわりとらのおれ
 権中細之まはり路ふとの日さらり文をま
 かり路なりせりわりてかつとら路なり
 志をわんだててこみ路なりまはりか
 志にまめ路なりまわりんまはり
 けり中はわりて教とらりつひ路をわ
 しわりてかへりまはり路ふけりん
 路なり路なりけりまはり路なり
 路なり路なりとわり路なりまはり路
 路なり路なりとわり路なりまはり路
 のおと志りまこととととととととと
 わりこからまかきかきとととととと
 たりとととととととととととととと
 路のゆきとととととととととととと
 たりまはり路なり路なり路なり路
 くりととととととととととととと
 のおととととととととととととと
 志りととととととととととととと
 ひととととととととととととと





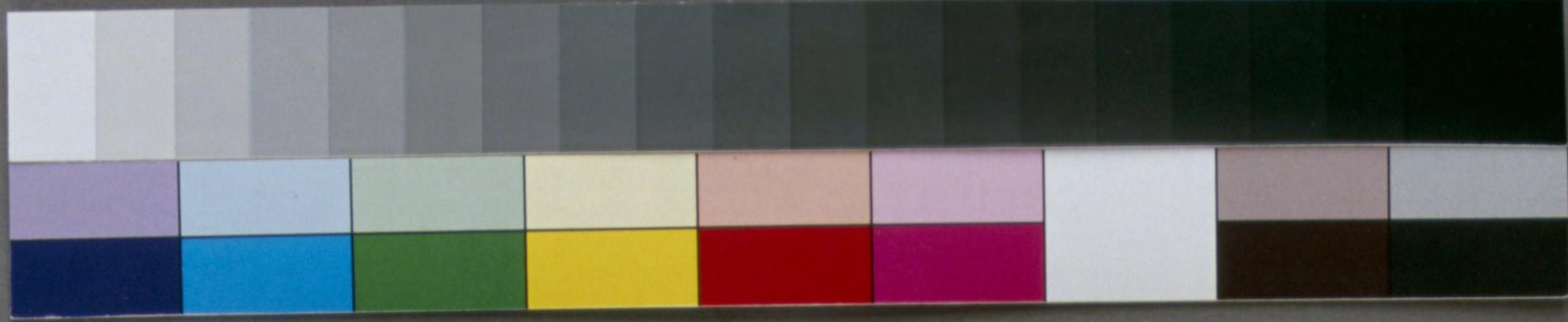
沖志のまうれくさうつりもてくめえ
 みかりけしつゝあぢきつりてひらり
 くのまりぬ東のげがらしくなりかこ
 物とあられぬあつたてつらひらあま
 つらつそく昔のつられこりとも出
 ていさげささうらうくもんは公と
 信志みすくささえねしきあつくも
 しらん流れあまも世志なうさうく
 おもれぬいささあをすらもれあ
 らんいさすく見ぬあ人の命さ
 けひわらいつかたれよあ人あがた
 くひまれつて人もよさうま
 こそあからふこのみちなあくあ
 いさあを捨てらんさくのく物
 へせぬよけたかき事とあまた
 てい事とひらりさくあつたあ
 しのまけんあやしくあつたあ
 かよしてかきひくつらあつたあ
 せふあつてあつたあつたあ
 よれあつたあつたあつたあ





ぬくぬくさうられけしとふて乃ゆくさ
 甲わりとけりさしゆちんけり入浴
 つまきつとつせぬくゆらんせき入
 記す神くをすましく記やうのあつ
 記てやあらんとみこましゆんかふのさ
 えまがしりまらておろぬ一歳日さるし祿
 とわくにものくわりま祿ひとあは
 はものふきさけさくち祿まのつ
 うつらんうあわりのわつ一筆とちちち
 うつこぬそわやうむ一ぬれ寝み極うと
 ぬりさううやくまらとわりわつさかつさ
 てうさうらむたらひと出られといふのころ申
 日は秋人下りわけわう人のまに事とま
 見えたりとてんてあつ院のゆまへててんた
 ちかいあんまういふまかんとぬくとりく
 ありえまうしとせ給いさわんその申ま
 見あせよりぬかよとせぬくはそへけとせ
 給つらひわりてぬきいとしさり物よりく
 つらとけぬこの中申は琴ひつせ給ぬ
 あむつらさしとつさやんよとあえひりあう

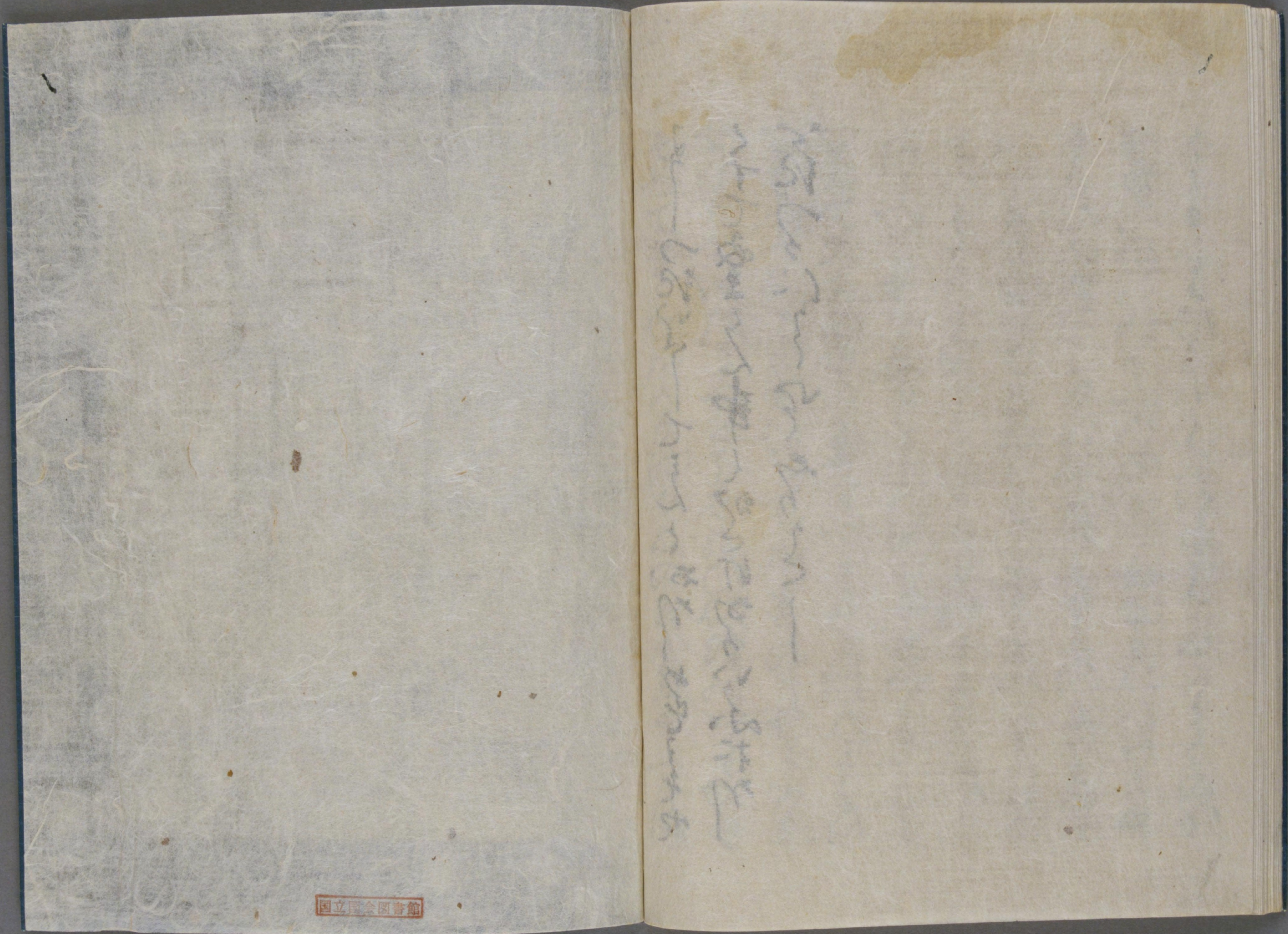




くもよんひうとほろさらぬみくのが
 世にぬけぬる人乃かくえぬたぬわき也
 多りい御世にしもの御存えすきにぬりあ
 けるまよわうて思つとあり志しこへようけり
 ていきてもわううあちありいまよ世後の
 けつそかと命ううあめううあふこも
 甲のそのち乃世の事成つとめりいよるひ
 ぞよつんとおほほてふ置のくわちあり
 ぞめてぬたうつくせ給ひ仏経れいこも
 そへてまきせぬめりにを志のまらちあふさぬ

まう一つ記いしてまんとおつめしよをぬ
 くすてぬまらん事しかけありいふおれ
 花つらにうをありしー



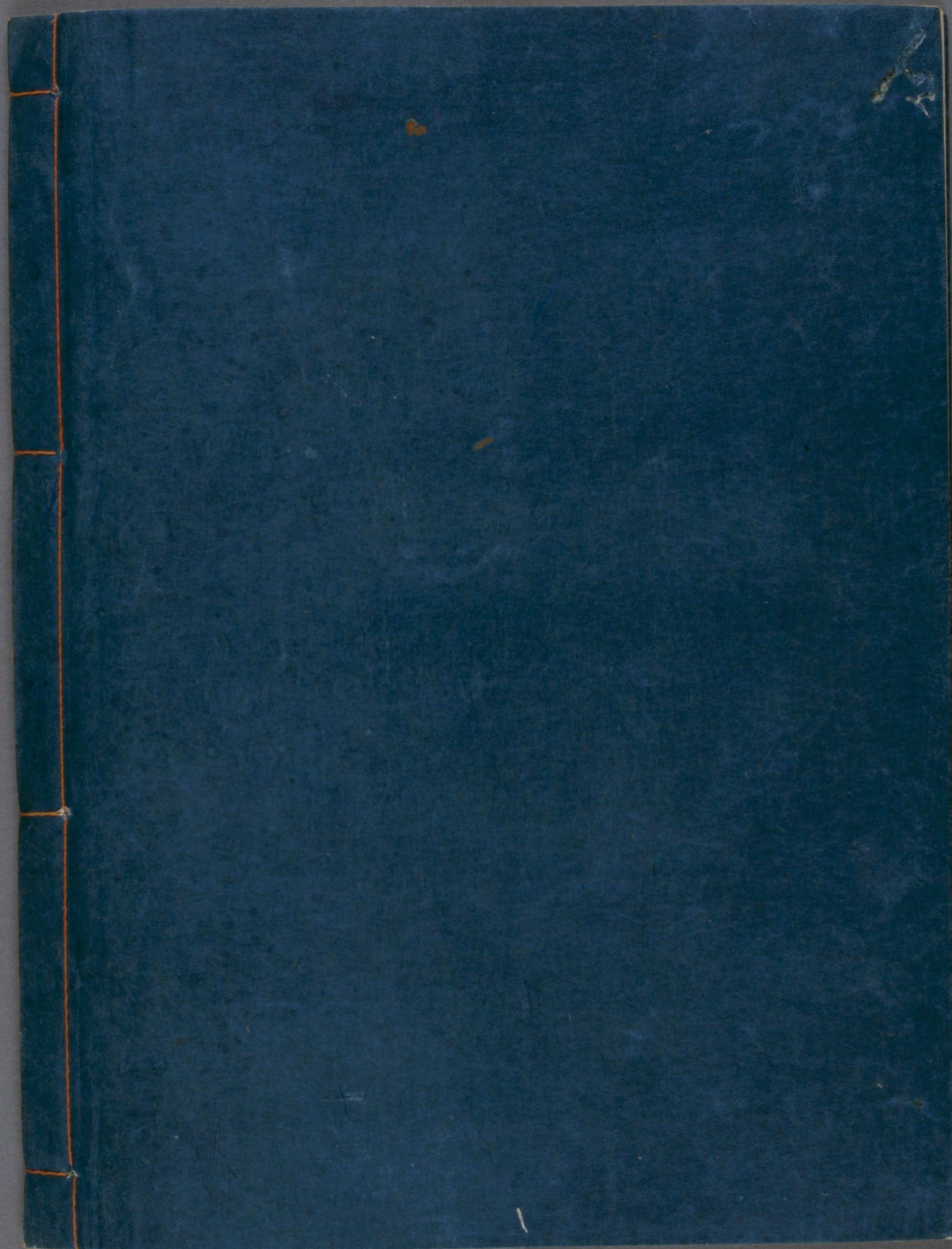


国立国会図書館

源氏物語 17 えあはせ WA7-263 17-025

国立国会図書館





源氏物語 17 えあはせ WA7-263 17-026

国立国会図書館

